

項目	書名 音楽のおくりもの 中学器楽	17 教出
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○前半は楽器の基礎的な知識や奏法でまとめられている。後半はアンサンブルを中心とした「合わせて演奏しよう」「名曲旋律集」で構成されている。器楽表現と鑑賞の領域を横断した教材や、器楽と創作の分野を結びつけた教材をバランスよく配置されている。</p> <p>○7種類の楽器の紹介の主要部分の解説と、関連曲の紹介や、演奏レベルによる選択が可能な新しい曲が豊富である。音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすために、様々な奏法が具体的に示されている。</p>	
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○楽器の持ち方・構え方が様々な角度から示され、正しい奏法を習得できるようになっている。</p> <p>○リコーダーでは、音域を徐々に広げながら、無理なく二重奏へとつながるように、曲順にも工夫がなされている。ページ横に運指がある。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○よりよい演奏への手がかりが、キャラクターの吹き出しで示されている。</p> <p>○「音のスケッチ」という創作コーナーがあり、リズム・旋律等の創作で幅広い音楽の活動ができるよう工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「With My Heart」のコーナーでは、演奏家の音楽への思いや生き方が語られている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫></p> <p>○後半の「Let's Play」のコーナーでは、興味関心をもてる新しい曲も取り入れられ、音楽を楽しむ工夫がなされている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらのリコーダーでも学習できるよう運指も示され、選択して学習できるよう工夫されている。</p> <p><音楽文化についての理解を深めるための工夫></p> <p>○我が国や郷土を愛する心を育成できるように、我が国の伝統的な歌唱曲やわらべ歌などの音楽を教材として取扱っている。</p> <p>○「Let's try」では、世界の音楽のリズムに触れられるように工夫されている。</p>
	資料	<p>○演奏家の演奏場面の写真とメッセージ、音楽制作現場の写真が掲載されている。</p> <p>○AB変形判により音楽史、ギター&キーボードコード表、リコーダーの運指がわかりやすく紹介されている。</p> <p>○扱っている楽器は、リコーダー、ギター、箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の7種類である。</p> <p>○「手作り横笛」のページもあり、興味を高められる工夫がある。</p> <p>○巻末には楽典がまとめられ、演奏に役立てるよう工夫されている。</p>
	表記・表現	<p>○ユニバーサルデザインによる色覚等の特性を踏まえた判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字の工夫がある。</p> <p>○楽器の基本的な奏法が写真やイラストを使って説明されている。</p> <p>○和楽器においては、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○巻末のギター&キーボードコード表は、主要なコードを、指で押さえた手の写真入りで載せられているので初心者にも押さえ方がわかりやすい。</p>
総括	<p>○楽曲は、鑑賞教材との関連教材が豊富に掲載されている。</p> <p>○「名曲旋律集」では、名曲の解説とリコーダーで演奏する編曲が掲載されている。</p> <p>○リコーダー、箏、三味線を学習するコーナーには、鑑賞教材との関連教材が豊富に掲載されており、表現と鑑賞の領域を学べるよう工夫がなされている。</p>	

項目 \ 書名	中学生の器楽 27 教芸
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽科の学習を通して知識・技能の向上を図ることができるよう、「音楽学習MAP」を示し、学習指導要領に示された「内容」や[共通事項]との関連をもった学習が確実に行われるよう工夫されている。 ○教材は親しみやすい楽曲が多く、音楽的な基礎的な能力を伸ばし、主体的な音楽活動ができるよう基礎からアンサンブルへと、段階的に構成されている。
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各楽器の持ち方、構え方、構造などを、様々な角度からの写真やイラストの資料の掲載により、基礎的・基本的な技能が定着できるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動のヒントとなる「音を聴いて確かめよう」「ここが分かれば Grade up!」のコーナーでは、それぞれの楽器の特徴ある音色に注目させ、[共通事項]と関連させながら、表現力を育てる工夫がなされている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「練習のポイント」や「Q&A」「吹き出し」により、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「My melody」のコーナーでは、創作活動に取り組めるよう教材が配置されている。 ○「Let's Play instruments!」の打楽器コーナーでは、12種類の打楽器の基礎的・基本的な構えと奏法が写真で紹介されており、それぞれの楽器の特徴を生かした演奏に役立つ工夫がなされている。 ○各楽器とも、平易な練習曲から学習が進められるようになっており、様々な楽器編成やアンサンブル教材を選択できるよう工夫されている。 <p><音楽文化についての理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○我が国の伝統的な楽器等に親しみがもてるよう、写真と「楽器を知ろう」の解説が用意されている。 ○親しみやすい楽曲が豊富に用意され、平易な楽譜で簡単に演奏を楽しめるよう工夫されている。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダーのアーティキュレーションの奏法の説明で、音楽表現をより豊かにするためのヒントが示されている。 ○扱っている楽器は、リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器の8種類である。 ○それぞれの楽器の種類や用いられる場面などの写真が豊富であり、興味関心を広げる工夫がなされている。 ○発展的学習の「楽器と出会う」のコラムでは、著名な演奏家の興味深い思いが掲載されている。 ○奏法だけでなく姿勢や礼儀にも触れ、日本の伝統楽器の良さを知ることができる。
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○練習の手順が写真とともに丁寧に示されている。 ○箏、三味線、和太鼓では、リズムの感じがつかみやすくなるよう唱歌や楽器独自の記譜が掲載されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダーやギターのチューニングや扱い方の資料も多く、丁寧に解説されている。 ○後半のアンサンブルコーナーでは、鑑賞との関連教材が豊富である。また、各楽曲には、アンサンブルのヒントが示されている。